

福祉

総合事業への移行に向け 市の考えは 現行と同様に適切な支援を行う

介護保険事業計画

金子貞作議員(日本共産党)
介護保険法の改正に伴い、平成27年度開始の市の次期介護保険事業計画も要支援の高齢者を市が実施する新しい総合事業に移行させるとしているが、スムーズに実施できるか不安である。国は総合事業の基準を定め、市も本人の意向を尊重して必要な支援が保障される事業として実施すべきと考える。市の見解を問う。

答 国の新たな基準では、予防給付から総合事業への移行に要する費用を賄えるよう、従前の実績を勘案した上限設定とすることが示されている。また、移行後も現行と同様に適切な支援を行えるよう、地域支援事業の充実にも努めていく。

重要性増している 課題と展望は 民間参入で苦戦 見守りの輪を広げたい

高齢者向け配食サービス

石原よしの議員(民主連合 社民)
住み慣れた地域で、安心して自立した老後を送る単身や高齢者世帯の生活支援を目的として、市は高齢者向け配食サービスを実施している。個人商店等が廃業していく状況の中で配食サービスの重要性は増してきていると考えるが、事業の課題と今後の展望はどうか。

答 近年、民間事業者が多数参入してきたこと等から市の配食サービス利用者は約500人と若干の減少傾向にある。市内のコンビニエンスストアと高齢者の見守り等に関する協定締結に向けた協議を行う等、今後は民間事業者との協定を進め、地域の見守りの輪を広げていきたいと考えている。

地域福祉

声なき声救い上げる取り組み充実を 状況把握し適切なサービス提供を図る

谷藤利子議員(日本共産党)
本市の地域福祉計画には、公的福祉サービスの充実と共に福祉コミュニティの創出と助け合いの基盤づくりが重要とある。小学校区ごとに地域に開かれた拠点、気軽に立ち寄れる相談窓口を置き、「声なき声を救い上げる」公民共同の取り組みを更に強化できないか。

答 市は14地区で地域ケアシステムを展開し、各拠点に相談員を配置している。拠点に寄せられる情報は地域関係者等と共有を図り、行政との関わりが薄く気づかれていないようなケース等の情報は、訪問等で状況を把握した上で適切な福祉サービスが提供されるよう、きめ細かく取り組みたい。

高齢者住宅

住宅・街づくり施策の今後は 高齢者が生活しやすい地域社会に

大場 諭議員(公明党)
市営住宅の高齢化率が30%を超え、自治会の役割が果たせない等、地域コミュニティの存立が危ぶまれている。市営住宅を含めた高齢者の住宅の施策や街づくりに対する市の施策は、市全体で取り組むべき問題である。今後を含め、市はどのように考えているのか。

答 高齢化が進んでいる市営住宅を含め、高齢者が安心して生活できる住宅環境の整備が急務である。今後は、高齢者が活発に行動しやすい街の環境整備や、必要な在宅介護サービス等の整備を図りながら、高齢者が生活しやすい地域社会づくりを進めていきたい。

塩浜地域における高齢化

進行早い地域 今後の対応は 歩ける距離に支援基盤の整備を図る

荒木詩郎議員(みらい)
高齢化が進展する中で、とりわけ塩浜地域は高齢化の進行が早い地域であると考える。塩浜地域における

答 高齢化の現状と課題、今後の対応について、市はどのような考えを持っているか。

答 塩浜地域の高齢化率は24・32%と市内全体より進んでいる他、地域的にも交通アクセスが良いとはいえない。市は平成26年度から地域住民と在宅介護支援センターとの協働で出張窓口を開いており、今後は、歩いて通える距離に、地域住民や多様な担い手が運営主体となる場の創出を目指し、地域包括支援センター等と連携して介護予防や生活支援の基盤整備を図っていく。

在宅医療

医療機関連携と支援拡充の考えは 既存システム活用 拡充は要望を検討

中村義雄議員(公明党)
高齢社会では、患者が治療で完全に回復して社会復帰することは難しく、治療後の生活を含めた地域完結型の医療の充実が重要である。ICTを活用した医療機関の連携推進や在宅医療への支援拡充を要すると考えるが、市の認識はどうか。

答 本市では、在宅医療の医師等が患者の生活状況等を共有するシステムを導入しており、医療機関相互の情報共有に活用できるよう、関係機関と検討していく。在宅医療支援としては、ガイドブック等を活用して施設の周知や医療機関相互の連携を進めている。拡充は事業委託先である医師会から要望があれば検討したい。

道路・交通

観光循環交通

文化のまち掲げる本市 導入の考えは 文化施設巡回バス 試験的運行したい

松葉雅浩議員(公明党)
市内には、東山魁夷記念館、芳澤ガーデンギャラリー等、数多くの文化施設や観光拠点的な施設があるが、その中

答 本市の観光資源は広く点在しており、ルート設定等の課題から定期的な観光循環交通の導入は難しい。そこで、東山魁夷記念館、芳澤ガーデンギャラリー、文学ミュージアムを結び、周辺の観光案内も視野に入れた文化施設巡回バス等の期間を限定した試験的な運行について協議を進めたい。

信篤地域の歩道冠水

安全面からも早期の改善を 雨天時に現場調査し対策を検討する

佐藤幸則議員(自由民主党)
信篤地域の歩道には、少量の降雨でも冠水する場所や、車道から水が流れ込み、溜まってしまふ場所がある。

答 本地域では、住宅系への土地利用転換が進んだことにより雨水の流出量が増え、たびたび浸水被害が発生している。そのため、県は高谷川最下流に新たな排水機場の建設を進めている他、市も外環道路工事に合わせて雨水管等の整備を進めているところである。現時点での対策としては、雨天時に現場の状況を調査し、現場ごとに検討していく。

街づくり

原木2丁目地区の街づくり

土地区画整理事業 進捗と見通しは 合意形成に苦慮 意向の再度把握も

松永修巳議員(緑風会)
原木2丁目の土地区画整理事業については、都市計画マスタープランで、防災

答 本事業は過去2回頓挫しているが、市は平成22年の技術的援助の請求を受け、事業計画立案の指導等を行っている。事業協力会社からは、地権者の合意形成に苦慮しているとの報告もあるが、請求から約4年が経過しており、地権者の意向を再度把握することも対応の一つと考えている。

こども

「プレーパーク」活動

北部中心に好評 市内全域で開催を 行徳地域でも開催を支援していく

守屋貴子議員(民主連合 社民)
プレーパークは、子どもたちが木などの自然物を使い「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを基本とする遊び

答 プレーパークの開催には一定規模を有する都市公園等を確保する必要がある。行徳地域についても関係部署と協議・調整しつつ、開催に向け支援していきたい。

援については考えているか。

答 プレーパークの開催には一定規模を有する都市公園等を確保する必要がある。行徳地域についても関係部署と協議・調整しつつ、開催に向け支援していきたい。